

学園随想

学園理事長 小林素文

四月

桜の花咲く4月になると、心も華やき、新たな気分になります。

愛知淑徳学園も、中学生二八四人、学部生二二八六人、大学院生34人の新入生が加わり、総数一〇八五一人の生徒・学生達と共に、二〇一三年度がスタートしました。

中学の入学式、真新しい制服に身を包んだ一年生が、先輩たちの熱烈歓迎のクラブ勧誘に圧倒され、緊張しきった様子で初登校してくる姿は、付き添って歩く晴れ晴れとした表情の母親とは好対照で、微笑ましいものです。

まだ小学生の面影を残した初々しい新入生たちも、しっかりと志と目標があります。

「スポーツを楽しみながら勉強にも集中して取り組み、文武両道を目指します」(学園広報一〇七号より。以下同じ)「次々と生まれてくる(チャレンジしたい気持ち)を大切に、実りの多い学校生活をしていきたいと思えます」



真剣に校長先生の話を聞く新入生たち

五月

「将来の夢も見つけて、素敵な女性になれるよう頑張ってください」
一〇九年目の年度となる愛知淑徳学園の歴史を、力強く新たに築いていくであろう彼女たちが、あどけなくも頼もしく輝いていました。

愛知淑徳大学の長久手キャンパスに「アースメック (A S M E C)」と言う聞き慣れない施設が開設されました。Advanced (高度に) Health (健康を) Support (サポートする) Medical care and (医療と) Education (教育のCenter (センター)、それぞれの頭文字をとり、名付けられた「アースメック (健康医療教育センター)」は、最初



健康と医療の分野から「違いをともに生きる」社会をめざす「アースメック」

ていくことを目的としています。

愛知淑徳大学は「地域に根差し、世界に開く」を教育目標としています。このセンターが地域に根差した社会貢献の場となっていくことを願いたいと存じます。

六月

万緑の季節となる6月、愛知淑徳高校の同窓会が国際ホテルで開かれました。

同窓会には、学園の長い歴史を反映し、様々の年代の卒業生がおられ、そうした方々にお会いできるのが、楽しみの一つです。

明治38年に創立された愛知淑徳は、翌年愛知淑徳高等女

学校(以下高女)

となり、40年余の歴史を刻み淑徳の礎を築いて

きました。しかし、不幸で悲惨

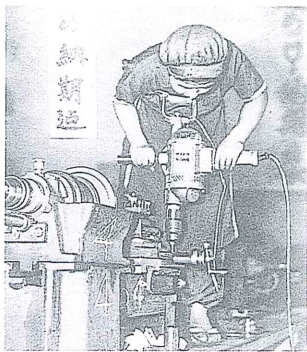
な戦争が終わり、昭和22年3月の

学校教育法の公布、同年5月日本国憲法の施行に伴い、翌23年度から愛知淑徳中学校・愛知淑徳高等学校として新たなスタートをきり、今日に至っています。

同窓会には高女出身の方々も出席されておられました。90歳前後となられた皆さんが「淑徳魂があったから頑張れたのよ」と明るく、優しく語られる口調からは、戦中・戦後を乗り越えてこられた強さを感じられました。

どのような時代でも家族や社会を誠実に支えてこられた卒業生たちに、愛知淑徳もまた支えられてきたのだと感謝の気持ちで一杯になりました。

あらためて、いつまでも卒業生が誇りに出来る、心の故里としていただける学校であり続けることの大切さを感じ、身が引き締まりました。



学徒労働員として軍需工場で働く淑徳高女生(中日新聞提供)

蟬の鳴き声が街中にこだまする7月、富永伸先生が逝去されました。享年八九歳。

先生には、中高で42年、短大で10年、合計52年、半世紀を超える長きにわたり愛知淑徳の教育を支えていただきました。

星が丘の地に校舎移転をし、素晴らしい教育を築こうとの情熱に燃えた、亡父小林素三郎校長を、富永先生は副校長としてしっかりと支えて下さいました。

父が学長職に専念すべき大学の黎明期には、先生は校長として立派に中高を発展させて下さり、今日の愛知淑徳の繁栄の礎を築いていただきました。

先生の法名は「淑厚院釋仲曜」淑徳をこよなく愛し、温厚であられた先生を彷彿とさせていただきます。



富永先生ありがとうございました
(合掌)



昭和43年のメキシコオリンピック
に出場した当時のOG
窪田(旧姓:小林)美和子さん
(現志ぶき会会長)

の皆さまを始め、同窓生の皆様と共に、この快挙を喜び、讃えたいと存じます。

一〇月

例年になく残暑が続く10月、大学の後期が始まりました。まだまだ夏服の学生たちで活気に溢れるキャンパスに、新たな施設が完成しました。

「国際交流会館(アイハウス)」と「AS保育室」です。アイハウスは、留学生の宿舎であると共に、ゼミや、合宿や、海外提携大学からの短期グループ学習や、地域と留学生との交流の場として利用されます。

これまでアイハウスは、キャンパスとは離れた場所に、敷地と建物を借りていましたが、20年間の借地借家契約が切れるのを機に、長久手キャンパス内に建てられたものです。「地域に根差し世界に開く」をモットーとする愛知淑徳大学の中核施設として、これまで以上に活用されていくことが期待されます。

AS保育室は教職員や、大学院生を中心とする学生たち

猛暑が続いた今年の8月21〜23日、静岡県立水泳場で、愛知淑徳中学水泳部が、またまた快挙を成し遂げてくれました。

全国中学校水泳大会で、昨年に引き続き、総合優勝を勝ち得たのです。

顧問の八神先生いわく「昨年度優勝した後、直ちに三六五日のカウントダウンを始め、連続優勝を目指しました」とのこと。

強い決意と目標をもちカウントダウンをしていったとしても、連続して全国一番になることは至難の業です。

優勝記録によると「四百メートルリレー」「四百メートルメドレーリレー」のリレー2種目で1位となったことが総合優勝に繋がっています。

まさにチームワークの勝利。それは、出場した選手だけでなく、控えに回った選手とも強い絆で結ばれていたからに違いありません。

心よりのエールを送り、栄光を讃えたいと存じます。

文武両道の伝統を受け継ぐ生徒たち、力を引き出す顧問やコーチの先生、そして、日常生活を支えるご父母の皆さんに心より感謝いたします。

オリンピック選手を輩出した水泳部OGの「志ぶき会」

の職場内保育室として利用されます。

これまではキャンパスの中心にあり、幼児が自由に戸外に出ることができなかったことを可哀想に思っていましたので、狭いながらも砂場等屋外施設がある保育所となり良かったと思います。

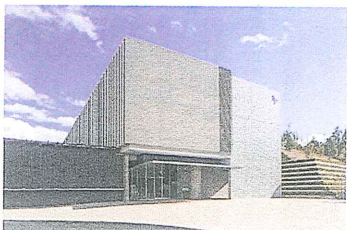
小さなお子さんをかかえての仕事や勉学は大変です。少しでもそれが緩和される施設であればと願っています。

年が明けると、大学入試です。生徒たちは人事を尽くし天命を待つ心境と思いますが、希望の道が開かれていくことを祈りたいと存じます。

やがて、卒業式、そして、学園百年目となる二〇一四年度が始まります。

愛知淑徳は周年記念を満年齢で行いますので、二〇一五年度が百十周年となります。

過去に感謝し、現在を充実させ、「伝統は立ち止まらない」精神で百十周年を迎えたいと存じます。今後とも宜しくご支援の程お願い申し上げます。



「地域に根差し、世界に開く」
拠点となることが期待される
「国際交流会館」